

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0903012

政策目標	1 はつらつ・雄武	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 事業期間 平成24年度～平成26年度 総事業費 40,800千円 機器導入台数 34台
基本施策	3 水産業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 水産資源の保護・増大	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	ほたて健苗稚貝放流用機器導入事業	見直し年度		
事業期間	平成24年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合	関係課	#N/A	
事業指標	機器導入台数		#N/A	
事業目標	11台	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	⇒	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
事業内容		事業内容					
計画内容	◎事業内容 ほたて稚貝放流用選別機器導入に対する補助を行い、健苗稚貝の放流を促進する。 ・選別機 240万円(概算) 補助率1/2 ・事業費 13,200千円(1,200千円×11台)					稚貝放流用機械導入に対する補助	
	事業費(千円)	13,200	0	0	0	13,200	
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	13,200				13,200	
実績事業費	事業費(千円)	16,921	0	0	0	16,921	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	8,800				8,800	
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	8,121				8,121	
関連事項	(特定財源の詳細等) 地域づくり総合交付金	【評価・実績】	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) 稚貝放流用機械導入に対する補助 11台分 ※前年度評価結果	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値				11台	
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	128%
		全体達成率	0%	0%	0%	0%	128%
		事業進捗状況					☆☆☆☆

事業名	ほたて健苗稚貝放流用機器導入事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井弘道
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	中村文隆

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	機器導入台数	
【抱える課題やニーズは】	ほたて漁業生産の早期安定化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地場産ほたて稚貝の健苗化を促進させることにより、ほたて漁業の生産性の向上を図る。	① 機器導入台数	目標年度	平成24年度
			目標値	11台
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	主力漁業であるほたて貝の生産の早期安定・増産体制を確立させ、漁家所得の向上、地域経済の活性化を図る。	②	実績値	11台
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	事業実施団体への助成	ほたて養殖事業において導入するほたて稚貝選別用機器導入に対し補助金を支出した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ほたて漁業の振興は、漁業者のみならず水産加工業者など地域経済に影響のあるものであり、本町の水産業を推進させるために必要な事業である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	健苗な稚貝を放流することにより、ほたて成貝の生存率及び歩留り品質の向上が期待されるとともに、作業の機械化により陸上作業時間の短縮、省力化が図られる。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	道の補助制度を活用することにより、事業費の削減を図った。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

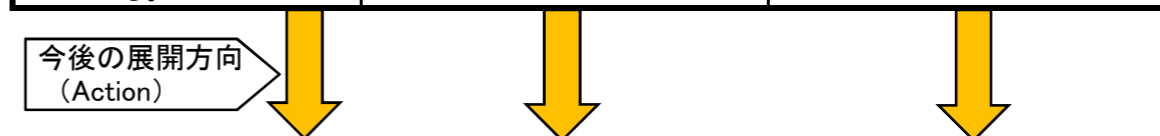
公平	判断の理由	事業実施主体も事業費の約1/3を負担している。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
買上げ基準を満たさない規格外品の選別、作業の効率化により稚貝の健苗化が促進され、成貝生存率の向上が図られる。また、町内業者から機器を調達することにより、他業種の活性化にもつながっている。		



継続/現状維持		
全養殖漁業者において導入する必要があることから、継続して実施する必要がある。(平成26年度完了予定)		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止